

『アズキの起源』が第42回講談社科学出版賞を受賞!

～東京會館にて贈呈式開催! 爆笑と感動の受賞スピーチ～

#講談社科学出版賞 #アズキの起源 #東京書籍 #贈呈式



ピースサインで受賞の喜びを見せる内藤健氏

東京書籍から2026年3月に刊行された『アズキの起源』（内藤健 著）が、優れた科学書に贈られる伝統と権威ある「第42回講談社科学出版賞」を見事に受賞し、9月18日（金）に東京會館において贈呈式が開催されました。

～華やかに執り行われた贈呈式の模様～

当日は「第48回講談社本田靖春ノンフィクション賞」の贈呈式も合同で開催されました。会場には多くの出版・科学関係者のほか、著者である内藤健氏（農研機構遺伝資源研究センター上級研究員）のご家族

や研究仲間も集結。会場が祝福の温かい熱気に包まれる中、式は講談社・野間社長による開会の挨拶と賞の贈呈からスタート。続いて選考委員の方々から受賞作への温かい講評や祝辞が述べられた後、各受賞者によるスピーチへと移りました。最後には花束の贈呈が行われ、会場全体からの盛大な拍手の中で閉式となりました。



全身「あずき色」で贈呈式に臨んだ内藤氏

～『アズキの起源』とは？～

本書は、赤いアズキの起源に迫る科学ノンフィクションです。「大陸から伝播した」という通説を覆し、ゲノム解析と考古学の成果から「縄文時代の日本でアズキの栽培が始まった」ことを明らかにした作品です。

～「アズキで賞取れるん!？」爆笑をさらったスピーチ～

内藤氏のスピーチは、関西弁混じりの軽快なトークで会場の爆笑を誘いました。

最終候補作に生命の起源や宇宙、数学といった壮大なテーマが並ぶ中、「その中で『アズキ』って…。(笑)」と回想。過去の受賞作に植物や作物を扱った本が1冊もなかったことから「よっぽど面白かったんでしょうね!」と笑顔で語り、会場を大いに沸かせました。



ひいひいおじいさんがアズキの先物取引をして全財産を失ったという因縁の家系エピソードや、戦国時代の先祖の初陣が「小豆坂の戦い」だったという驚きの裏話も披露。「日本でのアズキ栽培は縄文時代から始まっていた。実はお米よりも付き合いが長いんですよ!」とアズキの魅力を熱く語りました。

～「一人では到達できなかった」ご家族や仲間へ送る感謝～

スピーチ後半では、研究と人生を支えてくれた方々へ一人ずつ温かい感謝が述べられました。

お母様へは「今日の姿が恩返しになれば」と感謝を伝え、毎日支え合ってきた奥様へも温かいメッセージを送りました。

さらに、採用時に後押ししてくれた上司をはじめ、二人三脚でアズキ研究をスタートさせた最初の共同研究者や研究仲間へ感謝を表明。「研究がマジでおもしろい!」とゲノム解析に協力してくれた企業の方々など、多くの「アズキ仲間」との絆を熱く語りました。

内藤先生の講演会では、終演後に本が飛ぶように売れるそうです。本日の贈呈式スピーチでも会場を大爆笑の渦に巻き込んでいましたが、先生の圧倒的なトークの面白さと惹きつけられるパーソナリティがあってこそだと深く納得させられました。

◆ 『アズキの起源』 日本の歴史を書き換える1冊をぜひ!

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/product/books/81888/>